



横浜銀行 ニューヨーク駐在員事務所

週間トピックス Vol. 516 (2020. 9. 18)

<今週のトピックス>

ロールスロイスの電気自動車

車が好きな方は、一度はクラシックカー（ヒストリックカー）に魅了された方も多いのではないのでしょうか。

クラシックカーの定義は様々のようです。例えば、生産されてから25年以上経過した車、1919年から1945年までに製造された車、1975年までに生産された車など、定義や解釈には違いがあるようです。アメリカの場合は、1930年以前の車をアンティークカー、1931年から1960年をクラシックカー、そして1961年以降をプロダクションカーとして、区分けしているようです。今回のトピックでは、広義の旧車をクラシックカーとして総称します。

さて、そのクラシックカーの電気自動車化（Electric Vehicle）が話題になっています。コンバートEVと言われていますが、ガソリン自動車を電気自動車へと改造（コンバート）した車のことです。

コンバートEVを有名にしたのは、あるウェディングだと言われています。

2018年、ハリ王子とメーガン・マークルのウインザー城でのウェディングのとき、披露宴会場まで、乗っていったのが、1968年製シルバーブルーのジャガーEタイプのコンバートEVでした。1961年、ジュネーブ・モーターショーで発表されたジャガーEタイプについて、スポーツカーの巨匠エンツォ・フェラーリは、「ジャガーEタイプは、間違いなく世界で一番美しい車である」と賛美したようです。メーガン妃のウェディングドレスや結婚指輪と同じぐらい、いや、それ以上に目立っていたのかもしれないです。



クラシックカーには、現代の車にはない、独特のフォルム（デザイン）や雰囲気があります。ただし、それを維持し、実用車として乗るには、オーナーは様々な悩みを抱えています。

コンバート EV によって、次のような悩みが解決されます。

クラシックカー オーナーの悩み	コンバート EV による悩み解決
故障が多い	故障が少なくなる
パーツや修理代が高くて、維持費がかかる	維持費が安くなる
古くてパーツが無い	改造するパーツは新品なので安心
燃費が悪く、ガソリン代が高くなる	ガソリン代はゼロ円
クラシックカーは好きだけど、地球環境にやさしくない	排気ガスは出ないので、環境負荷が少ない

アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴにある、「Zelectric Motors」は、フォルクスワーゲンや初期のポルシェのコンバート EV を手掛けている会社です。2021 年の注文は、すでに 2020 年の 2 倍になっているとのこと。Zelectric 社は、フォルクスワーゲンのビートルやマイクロバス、ポルシェ 356 をテスラのコンポーネンツに入れ替えることで、100 から 180 マイルの航続距離を実現できると言っています。また、興味深いのは、依頼者の大半が、クラシックカーを初めて購入する人で、さらに半数以上が女性ということです。



英国・シルバーストーンにある、「Lunaz Design」は、英国のクラシックのラグジュアリーカーのコンバート EV を販売している会社です。クラシックカー用に独自のパワートレイン（動力伝達装置）を設計、開発、製造しており、世界中にカスタマーを抱えています。なお、英国では、2035 年からガソリン車とディーゼル車の販売を禁止する方針が表明されています。

2020年8月、Lunaz社は、これまでのジャガーやベントレーに加え、ロールスロイスのEV車の製造開始を発表しました。ベースとなるのは、1961年式の「ファントムV」です。ロールスロイスならではの豪華な内外装だけでなく、EV車の機能性能の向上にも注目されています。Lunaz社には、ルノーFIの元テクニカル責任者やル・マンレーシングでハイブリッド車を率いたエンジニア、他にもマクラーレンやコスワースから来たメンバーが居ます。これにより、テスラの車と同じように、250から300マイルの航続距離を達成し、家庭用充電と急速の公用充電が使用できます。ちなみに、このファントムVの車両価格は\$650,000（約7千万円）からのようですが、限定30台ということもあり、世界中から注文が入っているようです。

(出所：Zelectric Motors, Lunaz Design, Wall Street Journal)

